

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名:長門保健医療圏

対象医療機関名:医療法人生山会 斎木病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		長門医療圏について、地域利用構想の必要病床と令和7年度病床機能報告を比較すると、急性期が172床、慢性期が7床過剰である一方で、回復期が91床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、急性期46床、慢性期37床を保有している。 しかし、看護師等の人材確保が困難な状況が続いており、急性期病床、慢性期病床共に満床の状態に過去数年なっていない。今後、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期1床、慢性期2床を削減する 削減理由は、 ①看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため ②現在当該病床は過去数年稼働しておらず、人的資源で業務効率化を図る必要があるため ③今後、回復期病床(地域包括ケア病床)への病床転換を検討しており、人的資源を回復期に集約する必要があるため	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期1床、慢性期2床で現状未稼働状態にある。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない。
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		従前より未稼働中の病床を削減するにすぎず、削減後の急性期病床45床、慢性期病床35床は、人的・物的資源を集約し、稼働率を約5～10%向上させることで、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。 なお、今後は地域全体として不足と見込まれる回復期病床(地域包括ケア病床)への転換に注力していくことは地域医療構想の実現にも資するものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期					1	2026/9/1	1
回復期							
慢性期					2	2026/9/1	2
合計					3		3

【参考:R7病床機能報告(長門保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R7(2025)現状		321	40	135	2	498
	②R8(2026)予定		321	40	128		489
構想	③R7(2025)必要数	29	149	131	128		437
④構想との差(R7)(①-③)		△ 29	172	△ 91	7	2	61
⑤構想との差(R8)(②-③)		△ 29	172	△ 91			52

対応方針（2025プラン）の変更（医療法人生山会 齋木病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R7 現在	R8 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・ 急性期機能と慢性期機能を担う。	長門医療圏における二次救急医療機関として地域医療を支えていく。そして地域の医療・介護・福祉の連携を強化していく。将来の医療需要を見据え、生産性の向上と医療資源の効果的活用を目的に、実質稼働していない病床を中心に病床削減を行っていく予定。また、長門医療圏で課題となっている回復期病床不足に対し、急性期病床の一部（15床）を回復期病床（地域包括ケア病床）へ転換する予定。	高 度 急性期			令和8年9月実 施予定
急性期	46	46			急性期	46	<u>45</u>	
回復期					回復期			
慢性期	37	37			慢性期	37	<u>35</u>	
休 棟					休 棟			
合 計	83	83			合 計	83	<u>80</u>	